時事新報

日本石炭業の前途

今度三菱社が東京の日本橋區元大工町に石炭賣店を開き同社所有炭山產出の眞品を一定の價にて小賣する旨を廣告したり此事些細なるに似たれども府下の石炭市上に影響するよと大なる可ければ剛か我輩の所見を記して石炭商人の注意を促すも亦無益ならざる可し各地方にて石炭賣買法の如何は姑く差置き近く東京市内の事情を目擊するに凡そ物を買ふに石炭を小買するほど面倒なるはなし重量粗大の品柄にして其性質良否の見分けも素人には易からず之を用ひて始めて分ると申す位の次第にして用法不慣の家にては先づ賣方の言を信するより外なし然るに其賣店の不注意か、運送人足共の不正か、豫め品物の見本を取りても實際持居の時には見本通りの品を見ず又その受渡の際に目方を改めんとすれば故さらに石を混じたるあり水を灌ぎたるあり尚ほ甚だしきは多量の取扱ひ混雜の際に秤の目を偷まんとする者さへなきにあらず家々のストーヴなどに用るものは固より些少の高なれば如何やうにても苦しからずと大目に看るも營業の工場用に至りては然るを得ず樣々に工風して石炭屋の不正を防がんとすれども曾て意の如くならず右に防げば左に避け今日の鯱判に恐入りたるが如くあれども明日の賣方は依然として昨日の如し實に持て餘さしたる次第にして當惑の折柄、今度三菱社の賣賣は如何にも時の必要に應じたる商賣にして同社の信用と其資本とを以てするよとなれば自今以後は府下の各工場幷に私の家々にても鑛を出して其鑛だけの品を得るのみならず受渡の際に品物にも目方にも不正の掛念なければ之を改るに餘計の時を費すに及ばず賣者の便利賣に此上もなきよとし知る可し又一方より見れば買者に便利あると共に賣者たる三菱社の利益も亦決して少々ならず其次第如何と云ふに從來の石炭屆が斯くまでに不正を働くと云ふと雖も其不正とは取りも直さず商賣不始末の事にして其不始末の根源は資本金の不足に在りと斷定して可あり石炭產地の原價と東京賣買の市價とを比較すれば例令へ其運送費等を引去るも非常の相違にして商人に利する所大なる可き筈なれども採掘の後、甲乙丙丁の手を經る其間に相互の信用なければ現金の取引を要し其現金は必ず高利を以て運轉するものなるが故に手より手に渡る其度び毎に品物の價は金利と共に昇騰して最終の石炭屋より消費者の用に供する頃には利益の香しきものを見る可らず是に於てか炭賣に偷み目方に偷み種々樣々の駒策を講じて一時の利を貪らんとするのみ自から止むを得ざる次第にして寬大に之を宥せば人の罪にあらず俗に云ふ無理算段より來る金利の所爲なりと云ふも不可なきが如し然るに今三菱社は無限の大資本を以て悠々事に當り所有の炭山より採掘したるものを所有の儘に覆んで府下に廻はし一切の資金に對するに五七分の利子を算して小賣を實施し然かも其價は必ずしも獨り大に減するに及ばず市中の相場法外に高ければ衆と共に法外の相場中に浮沈して唯少しく心を用ひ正々堂々商賣上の本則を守りて取引するまでのよとなれば其利益の大なる萬々明白の數なり或は他の石炭商が競爭を試みんとするも所謂牛と馬との競走に異ならず畢竟無益の沙汰にして徒勞す可きのみ三菱の小賣一度び現れてより東京市場に石炭商なしと云ふも過言にあらざる可し

雜報

○正誤　左の通り申來りたれば掲げて前報を是正す

十一月十日發兌貴社新聞雜報欄內に掲載有之候處弊社諸工事は本月二十日落成之筈にて遲くも本月二十五日點燈開業之手順に有之已に其旨電燈會社より有之候間退社諸工事は今度洲崎辨天町へ新築する計畫云々御記載の儀は何卒御訂正被成下度候也

十一月十五日　時事新報社　御中　中村太八郎

○深川電燈株式會社　本日發兌貴社新聞第二千八百四十一號雜報欄內に深川電燈會社より有之候處洲崎辨天町へ新築する計畫云々御記載の儀は何卒御訂正被成下度候也

十一月十五日　時事新報社　御中　中村太八郎

○朝鮮通信　（京城十一月五日發）

天長節　本月三日の天長節には例年の如く午前九時より我公使館へ朝鮮高等官東幷に各國公使の來賀あり夜分は我公使館事の兩館共に盛なる夜會を催し又居留地にても角力、煙火等の催ありて中々賑かなりし

清國の特命使節　先頃大王太妃の喪去せし時朝鮮政府は舊例に從ひ洪鈞永氏を告訃使に趙秉聖氏を書狀官に任じて清國へ赴かしめしかど清國政府は弔慰使を當國へ派遣するよとなり本日頃仁川港に來着の筈なる清國軍艦來遠にて欽差賜祭大臣（正使）穆昌、副使崇禮の兩氏渡來する都合なりと云ふ右に付朝鮮政府は清國使節を迎ふる爲め多數の官東幷に儀衛兵を仁川へ派出し又禮曹判書閔泳駿、外務督辨閔種默幷に金嘉鎭氏等は及廟中諸費金四萬八千六百四十一圓餘、墨國費金八萬千七百十三圓餘、教育費金三萬千七百九十三圓餘、市町村土木補助費金八萬四千九百七十一圓餘等なりと云ふ

大木の下に雜木雜草の生育す可らざるは商賣上にも同樣の道理あればなり

左れば三菱社の石炭小賣は今みそ小賣あれども行々は小賣に止まらず東京其他の要地に於て御賣の權柄も同社に歸す可きは數に於て睹易き所のものあり然かのみならず全國炭山の運命を卜するも歳月の經過に從ひ次第〳〵に社の所有に歸す可しと豫言して不當あらざる可し

が如し抑も炭山の事業は小資本の能くす可きものに非ず其採掘の仕掛に機關萬端大金を要するのみならず之を採掘したる上にて賣捌の掛引上に資本の豊なるもの あらざれば內外市場に商權を伸ばす可らず天下無數の企業家が僅に數千數萬の金を借用して炭山を開き未だ產物を見ずして先づ利足に迫られ幸にして採掘し得るも隨て採掘して隨て利足を拂ひ一朝命融の閉塞するに逢へば實を懷いて身代限する者比々皆是れなり例へば目下筑豐の炭山の如き今日の炭價あればみな小資本家にて得々營業するものもあらんあれども世界石炭の商況は百年を保證す可らず頓に一時の下落を致すよとも あらんには之に處するの法如何す可きや資力能く自から維持すれば妙なれども然らざる者は土崩瓦解の外なし此時に當りては山質の良否、工業の巧拙は論ずるに足らず唯資力の强弱を以て勝敗を決し弱者は兜を脫して强者の商門に降伏するの一路あるのみ即ち三菱社に權力の歸する時節にして敢て之に抵抗を試る者なかる可し故に今日三菱社の爲めを云へば幸吉して山を買ふを須ひず寧ろ之を其自然に任して其自滅降伏の時を待つよと得策なれと我輩の竊に計る所なり既に炭山採掘の全權を執り又その內外賣捌の道を專にす日本に石炭王を生ずるの日遠きにあらざる可し

時事新報

日本石炭業の前途

今度三菱社が東京の日本橋區元大工町に石炭賣店を開き同社所有炭山產出の眞品を一定の價にて小賣する旨を廣告したり此事些細なるに似たれども府下の石炭市上に影響するよと大なる可ければ剛か我輩の所見を記して石炭商人の注意を促すも亦無益ならざる可し各地方にて石炭賣買法の如何は姑く差置き近く東京市內の事情を目擊するに凡そ物を買ふに石炭を小買するほど面倒なるはなし重量粗大の品柄にして其性質良否の見分けも素人には易からず之を用ひて始めて分ると申す位の次第にして用法不慣の家にては先づ賣方の言を信するより外なし然るに其賣店の不注意か、運送人足共の不正か、豫め品物の見本を取りても實際持居の時には見本通りの品を見ず又その受渡の際に目方を改めんとすれば故さらに石を混じたるあり水を灌ぎたるあり尚ほ甚だしきは多量の取扱ひ混雜の際に秤の目を偷まんとする者さへなきにあらず家々のストーヴなどに用るものは固より些少の高なれば如何やうにても苦しからずと大目に看るも營業の工場用に至りては然るを得ず樣々に工風して石炭屋の不正を防がんとすれども曾て意の如くならず右に防げば左に避け今日の鯱判に恐入りたるが如くあれども明日の賣方は依然として昨日の如し實に持て餘さしたる次第にして當惑の折柄、今度三菱社の賣賣は如何にも時の必要に應じたる商賣にして同社の信用と其資本とを以てするよとなれば自今以後は府下の各工場幷に私の家々にても鑛を出して其鑛だけの品を得るのみならず受渡の際に品物にも目方にも不正の掛念なければ之を改るに餘計の時を費すに及ばず賣者の便利賣に此上もなきよとし知る可し又一方より見れば買者に便利あると共に賣者たる三菱社の利益も亦決して少々ならず其次第如何と云ふに從來の石炭屆が斯くまでに不正を働くと云ふと雖も其不正とは取りも直さず商賣不始末の事にして其不始末の根源は資本金の不足に在りと斷定して可あり石炭產地の原價と東京賣買の市價とを比較すれば例令へ其運送費等を引去るも非常の相違にして商人に利する所大なる可き筈なれども採掘の後、甲乙丙丁の手を經る其間に相互の信用なければ現金の取引を要し其現金は必ず高利を以て運轉するものなるが故に手より手に渡る其度び毎に品物の價は金利と共に昇騰して最終の石炭屋より消費者の用に供する頃には利益の香しきものを見る可らず是に於てか炭賣に偷み目方に偷み種々樣々の駒策を講じて一時の利を貪らんとするのみ自から止むを得ざる次第にして寬大に之を宥せば人の罪にあらず俗に云ふ無理算段より來る金利の所爲なりと云ふも不可なきが如し然るに今三菱社は無限の大資本を以て悠々事に當り所有の炭山より採掘したるものを所有の儘に覆んで府下に廻はし一切の資金に對するに五七分の利子を算して小賣を實施し然かも其價は必ずしも獨り大に減するに及ばず市中の相場法外に高ければ衆と共に法外の相場中に浮沈して唯少しく心を用ひ正々堂々商賣上の本則を守りて取引するまでのよとなれば其利益の大なる萬々明白の數なり或は他の石炭商が競爭を試みんとするも所謂牛と馬との競走に異ならず畢竟無益の沙汰にして徒勞す可きのみ三菱の小賣一度び現れてより東京市場に石炭商なしと云ふも過言にあらざる可し

記す世昌門外乃ち支那街道に迎恩門と云へる大門あり其上の山に壬申の亂を銘記せる碑あり此碑は乃ち壬申の亂に清國の援を得たるよとを忘れざるが爲めに建設したるものにして大門は當時當國王が清國の使節を出迎へたる所なり爾後慣例とありて清國の大使來る毎に國王は必ず此迎恩門まで出迎へしが當今の使節は海路より來り右の門を通行せずして入城するが故に國王の出迎もなし聞く所に據れば袁世凱氏も使節出迎の爲め仁川に下りしよし

機器局　は蒸汽器械等据付の儘休業中なりしも陸軍の盛なるに從ふて之を使用するの必要を感ずる事もあり我鐵細工人鈴木氏を雇入れて先頃より開業せしが全體同局の仕事は小銃の繕ひ雷管の製造等に過ずして單に技師巢成局と云ふ位の有樣なりしに此程兵使洪在義なる人は米國製の大砲を見て種々工夫を凝らし同局にて大砲二門を製造したるよし

仁川監理使　成岐運氏は朴齊純氏に代はりて仁川監理使に任ぜられたるよし

太神宮を仁川に奉迎す　兼てより太神宮奉迎委員として三重縣へ出張中なりし佐野氏は客月廿七日敢賀丸便にて神靈を奉迎し來り一先領事館へ安置し同三十日正遷宮式を執行し官民共に參詣して盛なる祭典を行へり

釜山のコレラ病　は漸く消滅したるを以て去る三十一日限り檢疫事務を廢する旨領事より其筋へ報道したりと云ふ

○町政の紛議、郡長の心配　靜岡縣遠江國濱松に於て先日より町政に關し紛議ある趣は屢々本紙に記載せしが今又同地よりの報を見るに町長內田正氏は本月九日より一切役場の事務に關係せざるよとしあり助役內田政治氏も辭表を差出して以來自宅に引籠り役場へ出勤せざるより町政を處理するものなく大に不都合を來したるに付此程役場吏員より所轄青沼郡長に其處置を伺ひ出でし處郡長は之れに答ふるやう助役內田政治氏は退職を申出でたるより今日に至る迄三箇月に充たざるを以て法律上尚ほ町政を處辨すべき義務あるものなれば內田氏に之を謀るべしと述べしかば役場員は內田氏の許を訪ひ郡長の意を通じたるに內田氏は余の辭表を差出したるは町民中の或る一派に對して僞義を重んずるの意に出でたるものなれども是れ全く余の希望にあらず然るに法律を以て之を保護するよとを爲さずして今日に至り法律上尚ほ其義務ありと云ふも余は聽ずる能はずと斷然之を謝絕したるより役場員も是非なく立去りたり右に付青沼郡長は痛く心配して何とか穩和に其局を結ばしめんと去る十日町內の重立ちたる人十五名に仲裁の事を托したれども圓滑に治まるべくも見えず結局郡長と或る有志者の盡力に依り役場員をして平日の如く事務を取扱はしむるよとなしたるよし

○新潟縣會の議案豫算　新潟縣にては去る十四日より二十四年度の通常縣會を開きたりしが其議案豫算の總金額は八十四萬二千圓にて前年度より增すよと雖ども其內訳を云へば清國へ出張の費用として二千七百十五圓餘、警察費金十一萬七千八百三十九圓餘、郡吏員給料旅費及廟中諸費金四萬八千六百四十一圓餘、墨國費金八萬千七百十三圓餘、教育費金三萬千七百九十三圓餘、市町村土木補助費金八萬四千九百七十一圓餘等なりと云ふ

○大坂造幣局の鑄造を見合す　同局の貨幣の鑄造を見合せのみとなるが本月下旬に入りて以來同貨幣の鑄造を見合せ受け居る補助錢貨及一圓銀貨の鑄造を停りと又右補助銀貨鑄造の銀行より買入るべき分のものを流用し置き後日のものをありと云ふ

○菅了法氏　同氏は去る頃は大に力を同黨に決して加入せざるに過日來世間に右の次第なるに過日來世間に右の次第なるに過日來世間に右の次第な